

4 調査研究業務の概要

平成16年度実施課題一覧

保健関係

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
感染症の発生拡大防止及び食品の安全性確保に関する研究	食品からの赤痢菌の検出法、及び分子疫学的手法による感染源特定方法の開発研究	新型の寒天平板培地の開発を含めて、赤痢菌を被汚染食品から、精度よく迅速に分離する手法の開発及び分子疫学的手法の検討、開発を行う。	15-17年度	P 12
	食品由来感染症の細菌学的疫学指標のデータベース化に関する研究	細菌学的疫学指標の一つとしてパルスフィールドゲル電気泳動による解析結果を用い、そのネットワーク化及びデータベース化を行ない、広域感染症や食中毒の拡大を防止する。	16-17年度	P 12
	呼吸器系感染症に対するウイルス検査システムの開発	呼吸器系感染症を引き起こす各種ウイルスに対する検査法を調査し、それぞれの特徴を組み合わせることで効率的な検査システムを検討する。また、不足する分については新たな検査法を開発する。	16-17年度	P 14
	レジオネラ宿主アメーバの公衆浴場等での分布及び生態に関する研究	公衆浴場のレジオネラ対策のため、レジオネラの宿主であるアメーバの公衆浴場における分布状況の把握を行うとともに、アメーバ汚染とレジオネラ汚染の関連を解明する。	15-16年度	P 12 P113
	容器包装詰低酸性食品のボツリヌス食中毒に対するリスク評価	気密性容器保存食品の保存温度条件とボツリヌス菌芽胞の発芽・増殖性についての検討を行い、同食品の保存過程の衛生管理条件を提言する。	15-17年度	P 12
	遺伝情報に基づく流行ウイルスの生物学的、分子疫学的解析	インフルエンザ、エイズ、感染性胃腸炎等の患者からウイルスの遺伝子を検出し、その塩基配列を決定し、抗原性、薬剤耐性、分子疫学、病原性についての情報を解析する。	16-17年度	P 14
ダイオキシン類、有害化学物質による健康被害の防止とその対策に関する研究	DNA損傷試験の動物個体への応用に関する研究	DNA損傷試験法の汎用性を拡大するため、感度の高い動物種、投与方法及び対象臓器を見いだすための検討・評価を行う。	15-17年度	P 14
	医薬品成分を含有した健康食品の検査法の開発	平成14年、ダイエット用健康食品によって死亡を含む多数の事例が報告された。健康被害の未然防止に向けた対策として、食欲抑制剤等の医薬品成分を含有した健康食品の検査法を開発を行う。	16-17年度	P 16
	食品中のダイオキシン類及びその関連化合物に関する調査研究	食品中のダイオキシン類分析法について、環境にやさしく簡便かつ高精度な微量分析法の確立を目指すとともに、主要農産物等の汚染実態調査を行う。	14-16年度	P 16 P114

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
ダイオキシン類，有害化学物質による健康被害の防止とその対策に関する研究	食品中有害臭素化合物の汚染実態の解明に関する研究	臭素化ジフェニールエーテル及び臭素化ダイオキシン類の微量分析法の確立を目指すとともに，その汚染実態を明らかにする．	14-16年度	P 16 P115
	ダイオキシン類のヒト健康影響に関する調査研究 - 油症患者ダイオキシン類追跡調査を中心として -	ダイオキシン類のヒト健康影響を究明するため，油症患者の血中ダイオキシン類濃度に係る追跡調査に加え，一般健康人のバックグラウンドレベル調査，胎児期等の曝露量調査等を行う．	16-18年度	P 16
地域保健情報の解析・評価及びその活用に関する研究	福岡県における主要死因分析（1973年から2002年の30年間のまとめ）	昭和48年（1973年）から平成14年（2002年）までの30年間にわたる本県の人口動態（死亡）統計から死亡率を地理的（市区町村別），時系列的に求め，地域差と年次変化を分析し，本県の死亡構造を明らかにする．	15-16年度	P 8 P116
	油症検診を支援する患者データベースの構築	油症患者の全国統一検診データをデータベース化し，検診現場で過去の検診データがパソコンで閲覧できるようにする．	15-17年度	P 8

環境関係

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
ダイオキシン類，有害化学物質に関する研究	ダイオキシン類データベースの構築と解析及び簡易分析法開発への応用	これまでに行った環境中のダイオキシン類調査結果をデータベース化し，種々の解析を行い，調査結果の評価，汚染原因究明調査，汚染防止対策に役立つ知見を提供するとともに，このデータベースを利用してTEQ指標異性体を検索し，簡易測定法を開発する．	15-17年度	P 10
	土壌汚染に係る化学物質の処理に関する研究	高濃度の多環芳香族炭化水素類（PAHs）汚染土壌に菌の存在が認められなかったため，他から分離したPAHs資化菌を添加したところ，資化菌の生存が確認された．このことから資化菌によるPAHs処理の可能性が示唆された．	16-18年度	P 20
大気環境汚染とその対策に関する研究	揮発性有機化合物（VOC）汚染解析に対するパッシブサンプリング法の実証化研究	揮発性有機化合物汚染事例等の汚染機構解明のために，独自に開発したパッシブサンプリング法等を実証的に使い，VOC汚染実態の把握，汚染防止及び浄化対策への提言を行う．	14-16年度	P 18 P117
	浮遊粒子状物質（SPM）による大気汚染の解析について - 自動車排出ガスの影響を中心に -	福岡県には浮遊粒子状物質（SPM）の環境基準未達成の地点があるが，その汚染機構の解明は未だなされていない．そこで，汚染物質のシミュレーション及び汚染源寄与の定量化を行う．	14-16年度	P 18 P118

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
大気環境汚染とその対策に関する研究	北部九州における黄砂の影響に関する研究 - 春季における高SPM現象との関連について -	ここ数年増加している黄砂の定量的な把握を行うとともに、浮遊粒子状物質（SPM）に対する黄砂の寄与率及び黄砂に伴う人為的汚染物質の長距離移流による影響について調査研究する。	15-17年度	P 18
	大気有害物質削減技術に関する研究 - 高活性炭素繊維による大気浄化の実証化基盤研究 -	沿道空気を高活性炭素繊維（ACF）内に強制的に通気、浄化させる方法について、通年測定し、ACF量と採気速度、NOx浄化率、温湿度の関係について検討する。また、広域的な大気浄化技術として、既存の道路フェンスや都市高速の防音壁にACFを装着、あるいは車のフロント部にACFを設置する両技術の可能性について検討する。	15-18年度	P 18
水環境汚染とその対策に関する研究	有明海に対する陸域からの汚濁物質解析とその挙動に関する研究	原単位法により現況（H15年）及び将来（H32年）の流域内汚濁負荷量を試算した。また、筑後川と矢部川において降雨時に流出する負荷量を調査し、この結果に基づき両河川からの年間負荷量を算出した。	16-18年度	P 20
	排水中の栄養塩類の流出形態及びその除去に関する研究	栄養塩類の排出源である事業場排水の排出特性を把握するとともに、排水処理技術に関する知見を提供する。	15-17年度	P 20
廃棄物の安全性と有効利用に関する研究	循環資源有効利用技術の開発及びリサイクル資源の環境安全性に関する研究 - 焼却灰の有効利用技術に関する研究 -	県で推進しているRDF発電施設から発生する焼却灰をはじめ、都市ゴミ焼却灰を建設資材として有効利用するために必要な技術の検討及び安全等の評価を行う。	14-17年度	P 22
	廃棄物処分場の管理手法に関する研究	廃棄物処分場を原因とする事故や環境汚染を防止するため、リモートセンシングや微生物解析などによる処分場検査法の有効性を検討する。	16-18年度	P 22
福岡県の自然環境保全と生物多様性保護に関する研究	福岡県内に生育する希少植物の保全生態学的研究	県内の希少植物（ガシャモク、リュウキンカ、ハンノキ林、ハマポウ林）を対象に、生育実態を把握するとともに、生育に適した環境条件や繁殖特性などを解明し、保全・管理手法を検討する。	15-17年度	P 24
	里山の再生・修復に関する研究	里山の生物多様性の評価方法、生息・生育する動植物間の相互作用等を調査・解析するとともに、地域住民、NPO等の参加による里山の再生・修復手法について検討する。	15-17年度	P 24
理学的要因による環境影響とその対策に関する研究	低周波音を制御する防音壁の開発	低周波騒音に対しては、音源対策以外に十分な対策技術がなく、近年苦情が増加している。そこで、伝搬経路上で有効に機能する防音壁を開発する。	14-16年度	P 8 P119
計	26 課題			